

2022年7月14日

杉並区長 岸本聡子殿

都市計画道路補助 133 号線（中杉通りから五日市街道までの延伸）に反対する会
原田道子 03-6383-1229
村上芳子 03-3313-4014

都市計画道路補助 133 号線延伸に関する申入れ書

補助 133 号線は 70 年前に計画された道路で、戦後の混乱期に決定されました。

長さ 890 メートル、幅は 16 メートルで中杉通り、南阿佐ヶ谷駅から五日市街道まで延伸するものです。

既存の道路を拡幅する他の優先整備路線と違い、100 軒以上の住宅を立ち退かせて、新たな道路を住宅街に通すことが特徴です。2016 年に東京都が「優先整備路線」に決定し、10 年以内に事業化が望ましい道路とされ、当時の区長も進める姿勢でした。

補助 133 号線は、防災力の向上、交通量の軽減から必要性が強調されています。しかし、地域住民は、道路にかかる住宅の立ち退き問題、地域コミュニティの分断、交通量の増大、騒音、排気ガスなどの影響による周辺環境の悪化、住宅地の用途地域変更による住環境の激変、莫大な財政負担など、多くの問題点を指摘し、反対の声を多数あげています。

2019 年 11 月に東京都による事業説明会が行われ、翌年 1 月より測量が開始されました。説明会に先立ち、2018 年には地権者や近隣住民で「都市計画道路補助 133 号線に反対する会」がつくられました。住民は「静かな街を壊さないで」というのぼりを立て、「測量一切お断り」のプレートを貼っています。計画見直しを求める署名は現在、3,313 筆にのぼっています。

以上のことなどから都市計画補助 133 号線について、杉並区は東京都に補助 133 号線道路計画（整備）の見直しを要請してください。

岸本区長と当該住民との懇談を今後、実施していただくことを併せて要望いたします。

【住民からの声の一部を以下に列記します】

(一部の方の意見です。更に多様な意見が会には寄せられています)

- 道路計画で 60 年以上にわたって地域住民の医療を守ってきた診療所がなくなり、近隣住民や高齢者などの健康維持が困難になります。
- 道路は既存樹木を切り倒してまで造るものなのではないでしょうか。子どもたちに残すべきものは自然です。
- 延焼を防ぐためと言うが、延焼を防ぐには 16 ㍓という道路幅では狭く、道路の左右に高い建物がないと延焼遮断帯にはならないのではないですか。
- 学区中の通学路を分断する道路で、児童生徒の交通事故遭遇の危険性が増えるのではないか。
- 現状では道を渡り近所付き合いが出来ていたが、道路が出来ると行き来がとても不便になる。
- ここに住み続けたい。・自然を壊すのは良くない。
- 今後は少子高齢化もあり交通量や車はどんどん減っていくのではないか。
- 善福寺川沿いの高低差はどうなるのか不明である。
- 平成 28 年に優先整備路線に選ばれた時にも当該地の住民の意見は一切聞かれなかった。
- 東京都が言う目的や整備効果は、当該地の外の方や青梅街道や五日市街道を通る車にとっては便利になるかもしれない、当該地の住民にとっては何のメリットもない計画である。
- 祖父母の代からこの地に住んでいてこの地を終の棲家と考えている。